



社会福祉法人 **ひとつの会**

令和元年度 事業報告

ひとつの会 統括本部

1. 法人基本理念： 人の為に走れ

2. 法人運営目標

【利用者・家族の為に】

支援を必要とするすべての人の期待や要望を的確に把握し、自立した笑いの絶えない生活の場の実現を目指す。

【職員の為に】

職員は、すべての面において働き甲斐のある職場環境の構築と、職員や家族が心から利用したい法人になることを目指す。

【地域の為に】

地域の福祉拠点として情報を発信し、ふれあいを大切にしながら、地域への参加受け入れを行い地域福祉の発展に貢献する。

3. 法人運営方針

【利用者・家族の為に】

- ・ 質の高いサービス提供により、安全・安心のサービスを追求する。
- ・ 個人の自主性を尊重し、家族の意見も取り入れた利用者本位のサービスを推進する。
- ・ 相互理解と説明同意により、納得のサービスを推進する。

【職員の為に】

- ・ チームワーク重視と資質向上への支援をし、安心して仕事のできる職場にする。
- ・ 健全な運営と公平な評価により、働き甲斐のある職場にする。

【地域の為に】

- ・ 親切、丁寧、即対応により、信頼サービスを追求する。

- ・関係機関と連携を密にして地域福祉の推進と向上に努める。

4. 理事会・評議員会の開催

【理事会】3回

- ・令和元年5月28日開催
 - 議案第一号 平成30年度 事業報告の承認について
 - 議案第二号 平成30年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算の承認について
 - 議案第三号 永年勤続表彰規程改定について
 - 議案第四号 理事・監事改選について
 - 議案第五号 評議員会の招集について
 - 報告第一号 福祉充実残高について
 - 報告第二号 新規事業等に於ける進捗状況の報告について
- ・令和元年11月23日開催
 - 議案第一号 (仮称)小鯖あいおい苑 新築工事一般競争入札について
 - 議案第二号 令和元年度中間報告について
 - (イ) 事業・業務報告について
 - (ロ) 半期決算に於ける収支状況報告について
 - 報告第一号 外国人技能実習生(インドネシア)訪問報告
- ・令和2年3月14日
 - 議案第一号 令和元年度 資金収支補正予算の承認について
 - 議案第二号 令和2年度 事業計画及び、予算計画の承認について
 - 議案第三号 居宅介護支援事業所「地域サポートセンター オ・サーバ」新規開設について
 - 議案第四号 評議員会の招集について
 - 報告第一号 新規事業等に於ける進捗状況の報告について
 - 報告第二号 外国人技能実習生受け入れに関する進捗について

【評議員会】2回

- ・令和元年6月15日
 - 議案第一号 平成30年度 事業報告の承認について

議案第二号 平成30年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算の承認について

議案第三号 永年勤続表彰規程改定について

議案第四号 理事・監事改選について

報告第一号 福祉充実残高について

報告第二号 新規事業等に於ける進捗状況の報告について

・令和2年3月28日

議案第一号 令和元年度 資金収支補正予算の承認について

議案第二号 令和2年度 事業計画及び、予算計画の承認について

議案第三号 居宅介護支援事業所「地域サポートセンター オ・サーバ」新規開設について

報告第一号 新規事業等に於ける進捗状況の報告について

報告第二号 外国人技能実習生受け入れに関する進捗について

5. 監査の実施

【決算監査】1回 令和元年5月28日（木）午前8時～午後5時

久保田克秀監事、堀越政美監事2名により、平成30年度法人並びに施設の事業報告、決算書並びに理事の業務執行の状況及び財産の状況について、社会福祉法第40条及び関係法令に基づき監査が、社会福祉法人ひとつの会 統括本部にて実施された。

監査の結果、法人並びに施設の事業報告、決算報告、決算付属明細表、財産目録等いずれも適正であることが承認された。

6. 具体的事業報告

(1) 事業運営

数字主体の施設長会議に移行したが、安定した事業運営はできなかった。

適正な収支管理ができず、特に人件費の増大に繋がってしまった。

※職員配置調整の対応が遅れ、不用意な異動者・退職者を生み出すことになった。

短期計画・中期計画を作成する。

(2) 人材確保

定年・昇給の年齢引き上げ、有給休暇5日付与を実行した。

職員互助会の内容の見直しを実行。さらに活用しやすく整理した。

人材確保のため、「介護実践研修会（介護業務を切り取った実技研修）」を開催し、求人応募数 105 名・採用 48 名の成果を上げることが出来た。

なお、令和元年度における、「入職 1 年未満の退職者」は 12 名であった。※昨年度：16 名（12 名のうち、転居：3 名・65 歳以上：2 名、3 カ月未満の退職者：6 名となっている。）

外国人技能実習生が、令和 2 年 3 月に特別養護老人ホーム フィラージュ開出に入職した。

また、令和元年 8 月 18 日（日）に「法人設立 15 周年祝賀会」を挙行することが出来た。

（3） 地域連携

「レノファ健康元気体操」を積極的に活用した、訴求活動は継続的に実行した。

「社会課題の解決」をテーマに、より多くの人に周知する新たな広報の軸を模索中である。

法人単体だけでなく、社協・他の社会福祉法人を巻き込んだ活動も開催した。

ケアハウス あいおい苑

【事業基本方針】

入居者の生活を大切にし、安心して普通の生活が送れるような生活空間・人間関係の構築を目指していきます。

【目的】

利用者一人一人の“生活”を大切にし、当たり前のことが当たり前ででき、利用者が苑で快適に普通の生活が送れるように環境を整え、適切で質の高いサービスを提供していきます。

疾病や障害があっても、利用者様や御家族の意向を尊重しながら、苑での生活を希望される限り、安心・安全・安楽に配慮し援助いたします。

【入居者の状況報告】

入所者…16名、退所者…18名

平均介護度

| | 月平均 |
|-------|------|
| 要支援 1 | 3.2 |
| 要支援 2 | 2.1 |
| 要介護 1 | 10.1 |
| 要介護 2 | 13.9 |
| 要介護 3 | 7.7 |
| 要介護 4 | 6.1 |
| 要介護 5 | 5.6 |

要支援の方から要介護度 5の方までさまざまな方が入居されています。

～ 介 護 ～

【具体的事業報告】

1. “生活”という視点を持ち、共に“生活”する・共に“楽しむ”ことに努めました。

自分が生活したいと思える環境作りを行う上で、少しでも苑生活が楽しく過ごせる様に、入居者のニーズにあった取り組みを勧めてきました。

また、家庭的な雰囲気を感じてもらえる様に心がけてきました。

その主な活動として、次のような事を行いました。

- ・入居者の誕生日には誕生日会を開き、喜んでもらえるようその方の好きな物を作り皆でお祝いをしました。
- ・苑の畑を活用し、季節の野菜を育て収穫し、その野菜を使ってユニットで調理し皆で頂きました。
- ・安全で楽しく食事が出来るように、食事前に嚥下体操を実施しました。
- ・日頃の取り組みを感じて頂ける様に、入居者の作品や写真をフロアに飾りました。
- ・毎月ユニットでの行事を企画し、実施しました。(外出・料理・カラオケ等)
- ・手作りのお菓子で季節を感じてもらえるよう喫茶を開催しました。(水羊羹・クリスマスケーキ・ぜんざい・桜餅等)
- ・季節に応じて、ユニットで外出支援を企画し、様々な場所に足を運びました。外出先としては、鳴滝、長門峡、秋穂荘、桑山、イオンタウン・・・等です。

2. 家族や地域との繋がりを維持し、さらに深める様支援しました。

家族との関わりを深め、情報の共有を図る目的として、夏祭りや各ユニット家族交流会の実施をしました。外出や行事には家族に声をかけ、苑行事に参加して頂ける様に促してきました。外出への参加は残念ながらありませんでした。

その他の活動として、次のような事を行いました。

- ・年2回の“お便り”（利用者状況提供書）による日常生活のお知らせを発送しました。
- ・毎月の行事・活動などをお知らせする広報誌（ななお）を作成し、家族へ発送しました。
- ・月1回ボランティアの方に手芸の講師を務めていただき、作品を作る楽しさを味わっていただきました。
- ・保育園の子供たちに来てもらう予定でしたが、保育園でインフルエンザが流行した為中止になりました。

3. 利用者の生活を最後まで支援できる体制作りにも努めました。

看取りについて介護職・看護職・その他の専門職が連携し、最後までその人らしい生活を送って頂けるように次のような支援を行いました。

- ・看取りの生活を最優先し、安心して生活を送れるよう支援しました。
- ・利用者・家族の意思を尊重したケアを行いました。
- ・利用者の疼痛緩和に努め、併せて精神的痛みへのアプローチも行いました。

・最後までその人らしく生きる事ができるよう職員一人ひとりが考え、ケアにあたりました。
・家族へこまめな情報提供や現状報告を行うとともに、家族の精神的なケアも行いました。
“介護・看護に関する知識や専門技術向上”として、毎月一回の施設内勉強会をグループホームと合同で開催しました。

4月…ケアプランについて

5月…食中毒について

6月…介護技術（食事介助）について

7月…防災について

8月…リスクマネジメントについて

9月…高齢者虐待について、身体拘束について

10月…感染症（ノロ・インフルエンザ）について

11月…オムツの当て方について

12月…各ユニット事例研究発表

1月…リスクマネジメントについて

2月…看取りについて

3月…コロナウイルス流行の為、中止

施設内勉強会の他に、外部研修会への参加も勧め参加しました。職員会議で、復命伝達講習を行い、他の職員に周知するよう努めました。

【令和元年度の状況・評価】

状況に関しては事業報告の通りです。

年に一度の誕生日にその方の好きな物を作り、皆でお祝いし喜んでもらえました。また、苑の畑で採れた野菜を収穫・調理し季節を感じてもらえることができました。

2月末よりコロナウイルスが流行し始め、3月の外出や勉強会が中止になった事は残念でした。

あいおい祭りや夏祭り・家族交流会には多くのご家族が参加されたことは良かったと思います。

保育園児の慰問は入居者さんにとって元気をもらえ喜ばれるのですが、今年は保育園でインフルエンザが流行した為、残念ながら中止になりました。

今年度は11名と多くの看取りの方がおられました。職員一人一人がその方に寄り添い最後までその人らしく生活してもらえるように努めましたが、家族との情報の共有が出来なかった方もおられました。その事は反省し今後活かせるようにしていきたいと思います。

毎月の勉強会で介護の知識や技術の向上に努めてきましたが、ケアを行う上で不十分な点も多かった気がします。

他職種と連携をとりながら、今後も入所者様により良いケアが出来るように努めていきたいと思います。

～ 看護 ～

【具体的事業報告】

【運営方法】

専門職として関係職種との連携を行い、利用者様に介護・医療のサポートを行います。

必要時、苑内看護の実施と充実および通院治療の支援を行います。介護職員に対する基本的な医療・看護技術・知識の習得および助言を行います。

(安全)

- * 胸部レントゲン撮影 (96%)
- * インフルエンザワクチン接種 (100%)
- * 医療行為
 - ◇インスリン注射 (2名)
 - ◇吸入・吸引
 - ◇創傷処置
 - ◇酸素療法
- * 訪問看護利用
- * 感染防止活動

(勉強会の開催)

感染 2回/年

看取り

(安楽)

- * 利用者様の『楽しみ』への援助
- * 苦痛の緩和
- * 看取りケアの実践
 - ・カンファレンス
 - ・情報交換、意向確認
 - ・エンジェルケア
 - ・死生観教育
 - ・グリーフケア
- ☆看取り人数 (11名)

(安心)

- * 年間を通し昼間は最低 1名以上の配置
- * 夜間オンコール体制
- * 受診介助 (242名)
- * 入院介助 (15名)

| 内訳（入院・転居・死亡） | |
|--------------|-----------------------------------|
| 入院 | ・肺炎・・・6名 ・他・・・7名 ・骨折・・・2名 |
| 転居 | 2名 |
| 死亡 | ・死亡 ・・・・11名 |

ケアハウス看護の目標、『利用者様や御家族の意向を尊重しながら安全・安心・安楽に配慮し援助する』を日々努力して参りました。

転落、転倒により骨折で入院をされた利用者様 2 名・肺炎 6 名・他の疾病での入院 7 名・他界された方 13 名でした。

当苑での看取りも 11 名あり、利用者様、御家族、スタッフ、苑関係者、看護師で思い出話の中で最後を看取る事が出来ました。

年間、受診介助（242 名）・入院介助（15 名）・インフルエンザワクチン予防接種・内服薬管理・健康管理等、業務の中でも御家族との信頼関係の構築を重視し連絡を細目に行い、疑問・心配事・御不満について拝聴し、御返事・御説明を行うようにしてきました。

【令和元年度の状況・評価】

状況に関しては事業報告の通りです。

今年はインフルエンザの発症、職員 2 名いましたが、利用者様に感染することはなかったのが良かったです。

また、御利用者様の置かれている背景を把握し病気の予測・早期対応に繋がるよう努力してまいりましたが、肺炎で入院された方が 6 名、骨折で入院された方が 2 名おられ 1 名は手術をされました。

今年は看取りが 11 名と多く、今後も増えていくと思われます。御家族様との情報の共有が行えなかった事もあり、今後は看取りに入る前後の御家族様との意思疎通を充分に行う為、アンケートの実施や看取りの心構え等文章にして少しずつ充実させていきたいと考えています。

また、御利用者様・御家族様に安心して頂けるよう努めてまいりたいと思います。

～ 相 談 ～

【具体的事業報告】

施設の窓口としての役割を担い、利用者およびご家族からの相談や、各種職員との連携・サポートについて、誠意をもって応じるように努めました。

*利用者・家族・職員・関係事業所との関係構築を目的に主に以下の通り業務に努めました。

- ・行事(個別・ユニット・全体)への参加
- ・ケアハウス・GHの病院受診補助
- ・入退院の調整
- ・入退居の調整
- ・事故・苦情相談による対応。
- ・広報誌“ななお”を毎月作成し家族へ発信。

* あいおい苑の状況を随時確認しながら、外部・他部署・関係事業所との連携を図りました。

- ・他居宅支援事業所へのパンフレット配布。
- ・居宅支援事業所や医療機関へ空床状況等の情報共有。
- ・他施設相談員会、外部研修への参加。
- ・空床時のショートステイ引き受け

【令和元年度の状況・評価】

令和元年度、入居については、担当ケアマネージャーからの紹介、病院の地域連携室からの紹介、空床ショートステイ利用等、様々な方を受けました。それにより、新たな方の相談や入居に繋がるケースが生まれたと思います。

退居については18名で、苑での看取り対応が11名と例年に比べ多く、その内、8名の方は計画に沿って他職種との連携を図り対応させて頂きました。

その他、医療機関への入院や急変による逝去、他施設への入居等、様々な形で、他職種や関係機関、家族等との関わり方が重要であると考えさせられる年となりました。

8月から満床が続かず空床が続いた為、スムーズな入居について今後も待機者の精査や新たな入居申込の確保に繋がるように、法人内や外部との連携に努めていきます。

あわせて、現時点の入居者(利用者)、家族が安心して頂けるよう、又、職員の業務がスムーズに対応できるよう、相談窓口となりサポートに努めていきます。

～ 機能訓練 ～

【具体的事業報告】

- ・ 機能訓練の実施状況
 - 1日平均 10～12名。
 - ・ 立ち上がり訓練・・・29名
 - ・ 歩行訓練・・・24名
 - ・ 筋力強化運動・・・18名
 - ・ バランス訓練・・・11名
 - ・ 体操・・・ほぼ全員
 - ・ 関節可動域運動・・・ほぼ全員
 - ・ 階段や障害物歩行訓練・・・17名
 - ・ 高次脳機能訓練・・・10名
 - ・ 移動・移乗訓練・・・4名
 - ・ 持久力向上運動・・・ほぼ全員
 - ・ 疼痛抑制・マッサージ・・・21名
 - ・ 回想・嚥下訓練目的の会話や歌・・・ほぼ全員
 - ・ 外出

【今年度の状況・評価】

令和元年度は利用者の現状維持と向上を目標としリハビリに取り組みました。拘縮の進行が見られる方、運動能力の現状を維持できた方、躓き回数の減少など向上がみられた方もおられました。

利用者自身の要望を聞きながら行えた部分も多くあり、その中でも利用者と考えた歌体操は多くの利用者へ上下肢の運動や嚥下訓練、体力維持運動を集団にて行う事の出来るものでした。集団での体操の回数を増やしたことによって居室から離れ体を動かす機会を増やすことは出来たが、利用者の状態によっては個別でないと目的とした動きが出来ず難しい部分もありました。

しっかりと動く事の出来る利用者に対して、拘縮や麻痺のある利用者に対するリハビリが回数的に少なくなってしまう、結果、拘縮が強くなった方もおられました。集団と個別リハビリの良い部分を生かしながら各利用者にまんべんなく関わられるよう努めていけたらと思います。

また、他職種間での情報共有や各ユニットでの要望を聞き、協力して、リハビリの時間以外でも各利用者に対して日々アプローチが出来る様、同じ目的を持って各利用者に関わっていただけるよう努めて行けたらと思います。

グループホーム 笑生苑

【事業基本方針】

1. 個人『らしさ』を大切に
2. 家庭的な環境づくり
3. 温かい心と尊厳の心
4. 地域との関わりを大切に
5. 笑って生活する

【目的】

1. 共助・・・『出来ない』ことへの支援
2. 共生・・・『談(団)らん』で和の時をもつ
3. 傾聴・・・『ゆっくり、ゆったり』
4. 地域交流・・・『気軽にホームに"おいでませ"』
5. 共働・・・『"信頼関係"の構築』

【入居者の状況報告】

入居者・・・4名（在宅1名・病院2名・他施設1名）

退居者・・・5名（看取り介護2名）（入院中に逝去2名）（特養転居1名）

男性・・・3名 女性・・・14名 計17名

平均介護度・・・（右田）2.9 （佐野）3.3 （笑生苑全体）3.12

【具体的事業報告】

- ・入居者様の楽しみが沢山増えるように、外出、料理レク、誕生日会、園芸など様々な活動を行った。苑の畑で採れた野菜を収穫・調理し季節を感じてもらえることができた。
- ・活動を行う際は、笑生苑の職員だけで行うのではなく、他事業所を巻き込んでいく。職員数の確保に繋げ、より多くの入居者様に参加して頂く事ができた。
- ・ご家族の面会時に生活の様子を伝え、ご家族からも生活の中で不安に思われている事、意見を聞くことで信頼関係の構築に努めた。
- ・入居者の生活スペースを大切に、個別外出など、希望があれば対応し、一人一人入居者が普通の生活を送れるようにサポートしていく事が出来た。
- ・新規入居者の受け入れの際は、しっかりと情報収集を行い他職員に周知し寄り添い関わる事で新規入居者が不安無く、施設生活にすこしでも早く馴染んでもらうことが出来た。
- ・家族と密にコミュニケーションをとり情報提供や現状報告を行うとともに、家族の思いの確認を行いながら看取り介護させて頂いた。ご家族の精神的なケアも行う事ができた。
- ・今年度は2名の方の看取り介護を行うことが出来た。開設当初から入居されている方の看取りとなった。十数年苑で生活され、ご家族に看取られながら最期を迎えられた。
- ・介護と認知症に関する知識や専門技術向上”として、毎月一回のケアハウスと合同で

施設内勉強会と3カ月に一回認知症ケアの勉強会を開催している。

- ・防府市が主催の『見守り模擬訓練』に協力事業所として参加した。

行政、包括、地域住民、小学校、他事業所など様々な機関と連携を取り、開催に向けて準備を行った。

| ケアハウス合同研修会 | 認知症ケア勉強会 |
|---------------------------------|------------------|
| 4月…ケアプランについて | ユマニチュードについて |
| 5月…食中毒について | |
| 6月…介護技術（食事介助）について | |
| 7月…防災について | ユマニチュードについて パート2 |
| 8月…リスクマネジメントについて | |
| 9月…高齢者虐待・身体拘束について | |
| 10月…感染症について (インフルエンザ・ノロウイルス) | 認知症の周辺症状について |
| 11月…オムツの当て方について | |
| | |
| 1月…リスクマネジメント | レビー小体型認知症について |
| 2月…看取りについて | |
| 3月…コロナウイルス流行の為、中止 | |

●行事報告

| 月 | 行事名 | 場所 |
|-----|------------------------|----------------------|
| 4月 | 佐波川散策 | 佐波川沿い・桜木児童遊園周辺 |
| 5月 | 瑠璃光寺・ゆめタウン | 瑠璃光寺・ゆめタウン山口 |
| 6月 | 動物園に行こう | 徳山動物園 |
| 7月 | 暑いときこそ美味しいものを食べに行こう！！ | イオンタウン防府・ソレーネ周南 |
| 8月 | 納涼祭・うなぎ祭り | 笑生苑 |
| 9月 | 防府天満宮参拝 園芸活動（花・野菜等） | 防府天満宮・うめてらす 笑生苑花壇 |
| 10月 | あいおい祭り カラオケ大会 | あいおい苑 笑生苑 |
| 11月 | ランチの後に紅葉見物 | イオン・毛利邸園 |
| 12月 | クリスマス会・忘年会 年末大掃除 | 笑生苑 笑生苑 |

| | | |
|----|------------------|-----------------------------|
| 1月 | 初詣 書初め 新年会 | 玉祖神社・イオンタウン防府 笑生苑 笑生苑 |
| 2月 | 節分 外出行事 | 笑生苑 イオンタウン防府 |
| 3月 | 歓迎会 | 笑生苑 |

*他に、誕生日会、個別外出等行っています。

【令和元年度の状況・評価】

- ・インフルエンザなどの感染症が流行る季節でも、職員が感染媒体にならない様に、早めの時期から苑内ではマスク着用を徹底した事で、今年も感染者を1人も出さずに乗り越える事ができた。
- ・看取り介護を2名行い、主治医、家族、介護職、訪問看護・専門職が連携し、最後までその入居者らしく満足した生活を送っていただけるよう支援をおこなった。ご家族としっかりコミュニケーションをとり関係性を作っていく事が出来た。ご家族からも『元気な頃からお世話になり、ここで最期を迎えることが出来て良かったです』とお言葉を頂き、満足していただく事が出来たと思う。
- ・職員としっかりコミュニケーションを図り関係を作る事で、相談できる関係性を作ってきた。職員の一人一人の意見を反映し、汲み取ることで職員のモチベーションアップにも繋がり、職員同士が意見交換できるようになった。
- ・コロナウイルス感染防止の為、早々に他事業所と協議し対策に取り組んだ。面会制限を行い、施設内の予防としては職員、利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所を毎日消毒し、職員のマスク着用を徹底し現在に至っている。
- ・2名の利用者が入院となり、そのまま退所となるケースがあった。
骨折の為入院となり、日頃の様子から起床直後のふらつきなど、転倒を予測できる材料は多くあったにも関わらず転倒させてしまった責任は大きく、今後はご利用者へのアセスメントを徹底し、転倒だけでなく考えられる様々なリスクを職員間で共有しマネジメントすることが重要と考える。
- ・見守り模擬訓練に協力事業所として参加させてもらった。様々な関係機関と連携・協議し訓練を終える事が出来た。見守り模擬訓練を通じて認知症という病気を抱えている方が少しでも安心して暮らせるように私たちが持っている知識を地域へ伝えていければいいと思う。

デイサービスセンター たまのや

【事業基本方針】

利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、可能な限り在宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮する。

【目的】

日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

【具体的事業報告】

(1) パワーリハビリを継続実施し、トレーニング内容の充実を図った。

日常生活の中で必要な動作の維持・向上できる運動プログラムの構築と提供を実施した。また、利用者の自立心を大切にしながら、機能維持改善のための機能訓練も実施した。

- ・ パワーリハビリ、個別機能訓練の実施。健康運動実践指導者によるエビデンスに基づく機能訓練の実施。ストレッチ体操、上肢・手指運動、嚥下体操、屋内外歩行の実施。
- ・ 柔道整復師・理学療法士の各専門分野においてアプローチできた。
- ・ 自立支援を念頭に在宅生活の継続を考えた生活リハビリの実施。
- ・ InBody を活用し身体状況の見える化を実現し、機能訓練のモチベーション向上が図れた。
- ・ メドマー導入し、下肢の浮腫、疲労感の軽減にアプローチし、立位、歩行機能の維持向上に努めている。

(2) デイサービスの特徴でもある、グループダイナミクスを活かしたレクリエーション活動など、利用者が楽しめるように利用者のニーズに合ったプログラムの構築に取り組んだ。また、楽しみながら認知症予防プログラムの充実を図った。

- ・ 「たまのや喫茶」2ヶ月に1回 陶芸教室を実施
(お皿、コップ、花瓶、季節の飾り物などご自分で作りたい物を作成)。
- ・ 作品作成 (空き缶風車、小さい傘・クラフトバンドでの籠作り)
- ・ #利用者の生活を守る の合言葉のもと、季節感を感じる壁画作りの実施
- ・ 誕生月の利用者に個別の誕生会を実施し集団内での個別化を図った。
(誕生日メッセージと手作りの記念品の贈呈)。
- ・ 頭の体操などの認知症予防プログラムの実施。(プリントや絵合わせなど)

(3) マッサージ・ウォーターマッサージの実施や安全で安楽な入浴サービスの提供を継続して行なった。

- ・ 柔道整復師によるマッサージ、ウォーターマッサージ・メドマーの実施。
- ・ 安全で安心のできる入浴サービスの提供。
- ・ 足湯や入浴時の足浴を含めたフットケアの実施。

(4) 行事実施状況

| 月 | 行事内容 | 月 | 行事内容 |
|----|------------|-----|----------------|
| 4月 | 桜見物（防府天満宮） | 10月 | 運動会 |
| 5月 | つつじ見物（大平山） | 11月 | 紅葉見物（瑠璃光寺、毛利邸） |
| 6月 | 映画鑑賞 | 12月 | クリスマス会 |
| 7月 | そうめん流し | 1月 | 初詣（三社参り） |
| 8月 | 夏祭り | 2月 | 節分 |
| 9月 | 敬老会 | 3月 | ひなまつり |

【令和元年度の状況・評価】

- ・ 専門職集団として、質の高いサービスを提供するために、介護福祉士、社会福祉士の資格試験への挑戦を勧めた。
- ・ ホール内の飾り物、職員の仮装、イベントを通じて「意図的な非日常的な空間作り」サブライズ感を味わっていただくことに努めた。
- ・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院の地域連携室などの関係機関を訪問し地域のニーズや課題の把握に努めた。
- ・ 佐野わくわくプラザの立ちあげや、健康教室への講師派遣を行い、地域との顔の見える関係づくりと並行して、地域の課題を解決する手立てを模索し、地域に根ざした社会福祉法人となれるよう「ソーシャルデザイン」を持続的に実践している。

ヘルパーステーションスマイルネット防府

【事業基本方針】

理念「誠実・信頼」をモットーに自立に向けた援助を行い状況変化に対応できるように、常に利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、寄り添い、同じ時間を共有させて頂く気持ちで、援助をさせていただきます。

【目的】

利用者のニーズにあった訪問介護計画を作成し、他職種などと連携を図り、安心して在宅生活を送れるようにする。

【具体的事業報告】

令和2年のカレンダー

利用者一人一人に誕生日プレゼント（タオル）

【令和元年度の状況・評価】

- ・ヘルパーの質の向上のため、研修をすることによって質の高い支援が出来る様職員一人一人が努力することができました。
- ・どんな困難にも満足して頂ける支援をし、登録ヘルパーの充実にも力をいれました。

訪問看護ステーション スマイルネット防府

【事業基本方針】

主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者及び家族に対し必要とされる看護を提供する。

【目的】

利用者・家族に必要とされる看護を提供し、安心・信頼される関係を構築する。

【具体的事業報告】

1. 病状や体調の変化に注意し悪化の防止・健康の維持増進、を目標とする看護ケアを提供し異常の早期発見に努め、医療機関（主治医）との連携を密にし、適時病状報告を行い状態変化時には早急な対応を心がけた
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者・家族にとって最善の看護が提供できるように努めた。
3. 在宅（グループホーム含む）で終末期を迎えられる利用者に対し、本人・家族を含め安らかなその人らしい終末期を過ごすことが出来るよう関わった
4. 医療連携を基にグループホーム・ケアハウス等法人内施設との連携を図り、入居者の健康状態の確認・病状把握・異常早期発見に努め、入居者が穏やかに安心して施設で生活できるようにサポートを行う。またオンコール～緊急時の対応（訪問）電話での相談・助言、医療保険（特別指示）での訪問を行った。

【令和元年度の状況・評価】

個人宅及びG Hでの終末期ケアを積極的に受け入れ、利用者及び家族に対し身体的・精神的援助を提供することが出来た。

特別養護老人ホーム 自由の杜

【事業基本方針】

入居者一人ひとりの思いを大切に、毎日の生活が笑顔あふれる暮らしになるよう支援する。

明るく家庭的な雰囲気を作り入居者にとって暮らしの継続となるよう支援する。

入居者一人ひとりの尊厳を守り、生活の継続を支援する。

入居者一人ひとりが穏やかで楽しく笑いが堪えない日々の生活を送れるように支援する。

法人理念『人の為に走れ』・施設理念『笑顔あふれる暮らし～あなたに会えてよかった～』

ユニットケア理念『暮らしの継続』を行動指針とし常に入居者とともに邁進する。

【目的】

入居者一人ひとりの特色を理解し、今までの暮らし・習慣を継続しつつ、施設サービス計画書を基にその人らしい生活が実現できるように援助する。

思いを汲み取り笑顔を引き出して、その人らしい生活が実現できるよう支援する。

家族の思いにも耳を傾け、連携していくことで笑顔あふれる毎日を過ごすよう支援する。

入居者一人ひとり、身体的・精神的状態が違う中で、その人にあったライフスタイルを見極め、適切な介助・支援を行っていく。そのために職員の技術、意識の向上を目指す。

【入居者の状況報告】

1. 介護度別入居者数（令和2年3月31日現在）

| | 介護度 1 | 介護度 2 | 介護度 3 | 介護度 4 | 介護度 5 | 合計 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 男性 | 0名 | 0名 | 0名 | 1名 | 3名 | 4名 |
| 女性 | 0名 | 0名 | 1名 | 8名 | 16名 | 25名 |
| 合計 | 0名 | 0名 | 1名 | 9名 | 19名 | 29名 |

2. 年齢別入居者数（令和2年3月31日現在）

| | 65歳未満 | 65歳以上 70歳未満 | 70歳以上 80歳未満 | 80歳以上 90歳未満 | 90歳以上 | 合計 |
|----|-------|----------------|----------------|----------------|-------|-----|
| 男性 | 0名 | 0名 | 1名 | 2名 | 1名 | 4名 |
| 女性 | 0名 | 0名 | 1名 | 10名 | 14名 | 25名 |
| 合計 | 0名 | 0名 | 2名 | 12名 | 15名 | 29名 |

3. 減免対象者数（令和2年3月31日現在）

| | 65歳未満 | 65歳以上 70歳未満 | 70歳以上 80歳未満 | 80歳以上 90歳未満 | 90歳以上 | 合計 |
|----|-------|----------------|----------------|----------------|-------|----|
| 男性 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 女性 | 0名 | 0名 | 1名 | 1名 | 1名 | 3名 |
| 合計 | 0名 | 0名 | 1名 | 1名 | 1名 | 3名 |

【具体的事業報告】

「職員個々の気づき」について、「グループで考える」ことが意識できるよう、施設内研修の内容・質の向上には力を入れ、「対応する・改善する意識」を持つよう、ユニットという枠組みを基本とした意見出しを行いながら、職員のレベルアップを図った。

行事・イベントについては、利用者に、「施設内でも季節感の移り変わりを感じていただく」を目的に、利用者・職員が一体になって楽しめる取り組みを意識し、直接参加することが難しくなった入居者にも楽しんでもらえるような企画を開催した。

また、11月には「地震時の避難訓練」を実施したことで、職員の防災に対する意識が高まった。継続して行うことで日頃からの意識付けを行いたい。

【令和元年度の状況・評価】

令和元年度、特養自由の杜の退去者は14名とほぼ半数であった。また、入居者も同数の14名であり、近年と比較し落ち着かない年度であった。

看取り対応対象者は8名（うち7名は死亡退去。看取り介護の平均日数は15日。）

介護職員の負担は大きかったが、きめ細やかな介護と他職種との連携、ご家族との情報共有・精神的なケアに努めたことで、看取り時には疎遠になっていたご家族が来苑されたり、遠方のご家族が頻繁に面会に来られるなど来苑機会が増えることは、介護の現場で働く職員にとって、とても意義のあることだと感じている。

なお、計画に基づいた業務は実行できたが、①スキルアップを図るための外部研修への参加、②コミュニケーションスキル向上については決して十分とは言えなかった。

今後の課題と再設定することで、目的の達成へ一歩ずつ近づいていきたい。

ショートステイ 自由の杜

【事業基本方針】

「在宅」という基盤を基に、ご本人・ご家族の意向に沿ったサービスを総合的に提供することで1人の人として社会生活を営むことができるように支援を目指す。

地域に根差し、密着したサービス拠点として、地域や家庭との結びつきを重視し安心して生活できるよう支援する。

【目的】

利用者個人に寄り添い、入居された時と同じ状態・状況で帰って頂けるように支援する。

居宅での生活そのままに利用中の生活との連続性に配慮し、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごして頂けるように支援する。

【具体的事業報告】

平成30年度と比べ稼働率・稼働回数とも上昇した。

- ・稼働回数…令和元年度：250回/月 ※平成30年度：197回/月
- ・稼働率…82.9% ※平成30年度：69.5%

【令和元年度の状況・評価】

生活相談員も配属2年目となり、各居宅介護支援事業所との信頼関係を維持・向上しつつ、収益の向上に取り組んだ1年であった。

日曜日・祝祭日の送迎にも柔軟に対応し、夕食後の送迎を開始するなど、新たな取組も始めたが、対応する職員への負担増も一部あるため、職員の適正配置・業務体制の再構築を都度確認しながら、利用者（ご家族）の意向に沿ったサービス提供を継続していきたい。

また、利用者の様々な状況・情報を、苑内職員間で共有することの大切さを改めて考えさせられた1年でもあった。

グループホーム 自由の杜

【事業基本方針】

運営の方針

同じ屋根の下、

1. 喜 … 共に喜び
2. 怒 … たまには怒ったり
3. 哀 … 哀しいときには傍に寄り添い
4. 楽 … 毎日楽しく笑いあえるような

そんな『あたりまえ』の生活が感じられるように支援する。

私たち介護スタッフも自分の家族を入居させたい、そんな「家創り」を目指していく。

【目的】

入居者・ご家族・スタッフで「慣れ親しんだ関係」を創り上げ、「思ひで創り」を積み重ねる。

【入居者の状況報告】

令和2年3月31日現在の入居者数：9名

（男性：1名、女性8名）

退去者状況：7名

（退去理由…逝去：3名、特養への転居3名、病院：1名 ※医療的ケアが必要なため）

入退居状況：7名

（男性：1名、女性6名）

【具体的事業報告】

役割づくり

台拭き、食器拭き、洗い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除等

生きがいづくり

| | | | | | | |
|------|---------|------|--------|-------|----|----|
| 個別活動 | 貼り絵 | 塗り絵 | 計算プリント | 習字 | 裁縫 | など |
| 集団活動 | 午前午後体操 | 壁画制作 | 季節の工作 | 歌 | 音読 | |
| | 日本の季節行事 | 散歩 | 調理 | お菓子作り | 等 | |
| | 畑作り | 草取り | 苗植え | 手入れ | 収穫 | |

その他 地域との関わり

職場体験受け入れ 右田中学校・玉祖小学校など
ひとづくり財団主催 新規採用職員後期課程研修職場体験

【令和元年度の状況・評価】

入居者、ご家族・職員が一体となり、安全・安心な生活が送れる「我が家」と感じていただけの「家創り」を基本方針に環境作りに努めた。

退居者が今までになく多くあり、別れや出会いを通し、よりお一人おひとりに向かい合うこと、その人らしさの日々の過ごしていただくことの大切さに気付いた1年であった。

また、特別養護老人ホーム自由の杜への転居となるケースも増えたことで、事業所を跨ぐ情報提供の必要性を昨年以上に感じた一年であった。

入居者の皆さんだけでなく、ご家族との繋がりを大切にすることで、今まで以上の繋がりもでき、新たな発見・体験が貴重な経験に繋がった。

新しい入居者も増え、職員間の情報収集・共有は下半期の課題となったが、これまでの経験を糧に柔軟に事象を受け入れることで、引き続き当ホームの役割を果たしていきたい。

あいおい苑 居宅介護支援事業所

【事業基本方針】

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援しました。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行いました。

【目的】

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行いました。利用者の中にある潜在的なニーズを把握し、専門職として代弁できるように支援をしました。

【具体的事業報告】

利用者に必要な新しい情報を提供し、様々なサービス事業所から自己選択を促し、CM、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図りました。また、地域包括支援センター、民生委員等、利用者の地域で関わる人との連携を大切にし、利用者を地域の目の中で支えていける体制づくりを常に心掛けました。

新規利用者の積極的に獲得し、集中減算に該当しないようコンプライアンスを配慮しながら、同法人の紹介率の維持、向上を図りました。

自己の知識、技術を高められるよう事業所内外の研修に参加し、復命を行い各担当が情報を共有しました。

特定事業所としての機能を認識し、適正な運営を行えるよう情報提供を行いました。

居宅連絡会議 毎週（金曜日）17：00～

防府市介護支援専門員協会総会

初任者研修・更新研修・主任介護支援専門員研修

介護認定調査員研修

医療や障害等の介護保険以外のサービス研修

地域支援事業にかかる研修

【令和元年度の状況・評価】

- ・介護給付のケアマネジメントにおいては、入院・入所等で終了となる方が多く、全体的に低迷してしまった。
- ・人事異動で体制の変動があったが、新規ケースについては通年を通して断ることなく獲得を行った。各包括からの依頼もあり、協働で動くことで関係機関との信頼関係の強化ができた。
- ・各担当が、コンプライアンスを遵守し、適切に業務を行うことで利用者又はそのご家族とのラポールを形成でき、そこから知人や親類へ紹介していただくケースもあった。

特別養護老人ホーム Filage 開出

【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指すものとする。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

【目的】

入居者一人ひとりの個性を尊重するため、施設の居室（個室）を10人程度のグループに分け、それぞれを一つのユニットとし、ユニットごとに食事・入浴・施設内の行事などの日常生活を送り少人数の家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケアすることを目的とした。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

| | 入居 | 退居 | (死亡退居) |
|----|-----|-----|--------|
| 男性 | 2名 | 6名 | (3名) |
| 女性 | 14名 | 10名 | (2名) |
| 合計 | 16名 | 16名 | (5名) |

2. 介護度別入居者数（令和2年3月31日現在）

平均介護度：4.00

| | 介護度1 | 介護度2 | 介護度3 | 介護度4 | 介護度5 | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|-----|
| 男性 | － | － | － | 1名 | － | 1名 |
| 女性 | 1名 | － | 8名 | 7名 | 11名 | 27名 |
| 合計 | 1名 | － | 8名 | 8名 | 11名 | 28名 |

3. 年齢別入居者数（令和2年3月31日現在）

平均年齢：87.9歳

| | 65歳未満 | 65歳以上 70歳未満 | 70歳以上 80歳未満 | 80歳以上 90歳未満 | 90歳以上 | 合計 |
|----|-------|----------------|----------------|----------------|-------|-----|
| 男性 | － | － | － | － | 1名 | 5名 |
| 女性 | － | － | 4名 | 13名 | 10名 | 23名 |
| 合計 | － | － | 4名 | 13名 | 11名 | 28名 |

【具体的事業報告】

1. 介護部門（ユニット）

愛UT) 入居者一人ひとりのペースに合わせた介助を行い、入居者、家族、職員と一緒に笑いあえるように支援した。

心UT) 明るく楽しい生活を心がけ、個別ケアを大切にし、統一したケアを行った。

夢UT) 入居者の充実した生活を支援し職員の接遇面、介護技術のスキルアップを図った。

2. 医務部門

早期発見と予防、看取りの充実化等、多職種連携し質の良いケアの提供を継続的に図った。

3. 栄養部門

食を通じて、QOLの維持・向上を図った。

4. 生活相談部門

対前年稼働率を上回り、多職種と共に新規加算の取得を目指した。

【令和元年度の状況・評価】

前年度は退居者及び入院者数が多く、空床期間が長期化することもあったが、対前年稼働率を若干上回ることができた。新規加算については、特段の行動ができず取得できていない。

介護に関しては、質の向上について毎月協議し、接遇面や介護技術、アセスメント法等の見直しを図った。看取り介護についても年々家族からのニーズは増し、前年実績は5件、施設での看取り実施した。

ショートステイ Filage 開出

【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じて、自律した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行うこととする。
3. 相当期間以上にわたり継続して利用する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行うこととする。
4. 地域との結びつきを重視して県・市・居宅介護支援事業者・その他の居宅サービス事業者、そして保健・医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

【目的】

社会的孤立感の解消、心身機能の維持・向上を図ると共に、家族の身体的精神的負担を軽減することを目的とした。

【入居者の状況報告】

[短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護]

述べ数 3,195 名(対前-32) 稼働率 87.3%(対前-1.1) 平均介護度 2.8(対前+0.2)

介護度別利用者数

要支援 1 26 名(対前+ 23) 要支援 2 73 名(対前+ 17)

要介護 1 790 名(対前+165) 要介護 2 374 名(対前-562) 要介護 3 743 名(対前+ 2)

要介護 4 774 名(対前-340) 要介護 5 415 名(対前- 13)

[防府市生活管理指導短期宿泊事業]

受入件数 2 件（総利用期間 14 日）

【具体的事業報告】

1. 介護部門（ユニット）
絆 U T）職員間での情報の共有、ケアの統一を図り、楽しみや休息など利用者一人ひとりに合わせた環境づくりを行った。
2. 医務部門
早期発見と予防、多職種連携し質の良いケアの提供を継続的に図った。
3. 栄養部門
食を通じて、Q O L の維持・向上を図った。
4. 生活相談部門
新規利用者の獲得と事業所内の連携の強化を図った。

【令和元年度の状況・評価】

前々年度の稼働率を上回ることができたが、各月の稼働状況に高低があり、安定した稼働率の確保とは言い難い結果となった。

人員配置が他部署より少ない体制のなか、柔軟な勤務調整や多職種連携等を通し、利用者ニーズに応える様々な企画・実行を行うことができた。

グループホーム Filage 開出

【事業基本方針】

1. 認知症によって自律した生活が困難になった要支援・要介護状態の利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえ、入居者がその有する能力に応じ自律した日常生活を営むことができるよう、食事・入浴・排泄等の介護その他日常生活上の世話及び機能訓練等必要な援助を行う。
2. 入居者の認知症状の緩和や悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
3. 入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して支援する。
4. 市・地域包括支援センター・居宅介護支援事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

【目的】

“楽しい”運動をもとに、身体造り

“笑顔の”会話をもとに、心の安らぎを

“おいしい”食事をもとに、幸せな1日を

そして、寝る前に「今日は楽しかった・・・」と感じてもらえる

そんな“あたりまえな”暮らしを行えるように支援した。

今しかできない事、今だからできることを共に行った。

【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

| | 入居 | 退居 |
|----|----|----|
| 男性 | - | 1名 |
| 女性 | 6名 | 4名 |
| 合計 | 6名 | 5名 |

2. 介護度別入居者数（令和2年3月31日現在）

平均介護度：3.41

| | 介護度1 | 介護度2 | 介護度3 | 介護度4 | 介護度5 | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|-----|
| 男性 | - | 2名 | 1名 | - | - | 3名 |
| 女性 | 2名 | 5名 | 2名 | 2名 | 4名 | 15名 |
| 合計 | 2名 | 7名 | 3名 | 2名 | 4名 | 18名 |

3. 年齢別入居者数（令和2年3月31日現在）

平均年齢：88.0歳

| | 65歳未満 | 65歳以上 70歳未満 | 70歳以上 80歳未満 | 80歳以上 90歳未満 | 90歳以上 | 合計 |
|----|-------|----------------|----------------|----------------|-------|-----|
| 男性 | － | － | 2名 | 1名 | － | 3名 |
| 女性 | － | 1名 | － | 5名 | 9名 | 15名 |
| 合計 | － | 1名 | 2名 | 6名 | 9名 | 18名 |

【具体的事業報告】

- ・入居者個々のニーズを把握し、その人らしく楽しく穏やかに過ごしていただくよう努めた。
- ・接遇力の向上に努め、家族と良好な関係を構築することに努めた。
- ・職場内のコミュニケーションを充足させ、職員が明るく楽しく仕事ができる環境づくりを行った。
- ・職員個々の提案を推奨し、ソフト・ハード面も含めた業務の見直しを図った。

【令和元年度の状況・評価】

上期は入居者の退居や医療機関への入院等が頻回に生じたが、下期に入り退居者数及び入院者数も減少し安定した稼働率を保つことができた。

前年度の退居者数5名の内3名については、家族のニーズに応え、施設での看取り介護を実践し職員の経験値や知識の習得に繋がった。

入居者状況は要介護度1から5までと幅広く、ADL及び認知機能とも様々であり、リスクマネジメントの観点からも、現行のハード面やソフト面の再見直しを図ることが課題である。

デイサービスセンター Filage 開出

【事業基本方針】

1. 利用者がお世話を受ける受動的な存在におさまらず、各自が役割を持ち、自らの様々な能力や残存機能を発揮し、その存在意義を見出せるように支援を実施した。
2. 常に利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち、公正中立に努めた。
3. 利用者の住みやすい地域での暮らしを支えるために、医療機関や他の介護事業者、地域の住民等と連携し、利用者を支える地域連携の拠点としての機能を展開した。

【目的】

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活のお世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る事を目的とする。

【具体的事業報告】

- ・職員間での情報共有を重要視し、必要に応じてカンファレンス等を行い、利用者個々のケアの統一を図った。
- ・職員の外部研修への参加や職員会議の充実化を図り、レクリエーションのマンネリ化防止に努めた。
- ・機能訓練指導員だけでなく、他職種も機能訓練に対する知識や技術の習得に努め、機能訓練の充実化を図った。

【令和元年度の状況・評価】

前々年度後半からインフルエンザの蔓延により稼働率が低下し、その影響を前年度上期まで持ち越し、上期は安定した稼働率を保てなかったが、下期に入り段階的に利用者を獲得でき、収入増へと繋がった。上記具体的事業報告にあるレクリエーションのマンネリ化防止、機能訓練の充実化等については、成果よりも課題が多くあり、計画的かつ継続的に取り組む必要がある。

グループホーム 笑生苑より愛

【事業基本方針】

「地域の中のより愛」

～近隣との良き交流のある生活～

【目的】

地域の一員として自治会や近隣の方々に見守られている。苑庭にある畑に近隣の方が手入れを行い、また入居者の話し相手にもなっている。日常に近隣の方が来苑する、開かれた苑の運営を実施する。

【入居者の状況報告】

・入退去状況

男性・・・1名、女性・・・8名

«入居» 2名 男性・・・1名、女性・・・1名

(自宅から 2名、)

«退去» 1名 女性・・・1名

(自宅へ 1名)

・入居者状況

平均介護度・・・2.3 平均年齢・・・88.2歳

【具体的事業報告】

1、地域行事への積極的な参加

- ・4月、12月 農、排水路の清掃作業
- ・ガレキ当番の立哨

2、開かれたグループホーム

- ・運営推進会議への地域福祉委員の参加
- ・近隣者の畑作り
- ・南圏域グループホーム事業所協議会の発足に参加

3、月別行事

| 月 | 実施項目 | 場所 | 目的 |
|-----|-------------------------------------|-----------------------------|---|
| 5月 | ツツジ見学 玉ねぎの収穫 | 佐波川河川敷 より愛 | 気分転換を図る。 収穫を喜ぶ。 |
| 6月 | 外食支援 あじさい見学 | かつぱ寿司 阿弥陀寺 | 外出を楽しむ。 季節を感じる。 |
| 7月 | 外食支援 | 潮彩市場 | 気分転換を図り、景色を楽しむ。 |
| 8月 | そうめん流し 晒石地区盆踊り大会 おやつ作り 夏祭り | より愛 晒石児童公園 より愛 より愛 | 季節を感じ、食欲を増進させる。 地域交流。昔を回想する。 他者との交流。 季節を感じる。 |
| 9月 | 敬老会（VOL） 月見団子作り おはぎ作り | より愛 より愛 より愛 | 長寿を祝う。 季節を感じる。 季節を感じる。 |
| 10月 | 外食支援 | イオン防府 | 普段と違う気分を味わう。 |
| 11月 | 一日旅行 サツマイモ掘り 個別外出 | 岩国市 より愛 防府市 | 普段と違う気分を味わう。 季節を感じる。 気分転換。季節を感じる。 |
| 12月 | クリスマス会 もちつき | より愛 より愛 | 季節を感じる。 |
| 1月 | 初詣 おしるこ作り たい焼きづくり | 玉祖神社 より愛 より愛 | 一年の平安を祈願する。 季節を感じる。 普段と違う雰囲気味わう。 |
| 2月 | 豆まき チョコレート作り 梅見学 | より愛 より愛 防府天満宮 | 季節を感じる。 季節を感じる。 季節を感じる。 |
| 3月 | お弁当の日 | より愛 | 気分転換を図る。 |

- ・月間行事：クッキング（月2回：日曜日）
- ・年間行事：アクティビティー・学習療法・習字
- ・避難訓練実施：4・10月 風水害避難訓練実施：6月

【令和元年度の状況・評価】

- ・中2階が埋まらない

前年度に退所者が続き、新年度になっても新規入居に至らず、稼働率が90%足りない月がほとんどであった。特に中2階は入居者のADLや認知の状態により制限してしまい、なかなか埋めることができなかった。現在は満床となった。外部への広報活動を積極的に行い、待機者の確保に努めていきたい。また、稼働率が維持できるように皆様の体調管理にも気を付けたい。

- ・南圏域グループホーム事業所協議会の発足に参加

この会は、南圏域にある3グループホーム事業所の関係性構築と連携力をつけること、情報提供・情報共有を図ること、地域貢献のための取り組みを目的としている。4ヶ月に1回の開催で6月「計画作成担当者の役割について」、10月「身体拘束適正化検討会について」、2月「運営推進会議について」活動した。3事業所で顔馴染の関係性ができたことが大きな成果であったと思う。また、同じ悩みを持つ事業所だからこその情報交換や情報共有ができている事は、今後のケアに繋がると思う。

北地域包括支援センター

【事業基本方針】

高齢者が住み慣れた地域で、継続して尊厳あるその人らしい生活を送れるように支援することを目的とし、地域の保健・医療・福祉サービスや各種社会資源等の地域包括ネットワークを継続して構築してきました。

高齢者が自分の望む暮らしに向け、予防に重点を置き介護保険だけでなく、事業対象者への移行を含めて包括的・継続的に支援しました。

【目的】

地域包括ケアシステムの推進に向けて各関係機関との連携や住民活動等インフォーマル資源を活用したネットワークの構築に引き続き努めています。

【具体的事業報告】

① 総合相談対応事業

住民に身近な総合相談窓口として信頼を得られるよう、親切丁寧な対応に努めました。

同時に多くの課題を抱えている利用者やご家族、支援が困難な利用者に対しては、行政機関や地区の民生委員・福祉員・ゆうあい訪問員等と連携を密にとり対応しました。

地域包括支援センターに関して、地域住民への講座や民生委員協議会への参加を通して普及啓発活動を行いました。

② 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防に対する取り組みを高齢者が自主的・継続的に行えるように意欲の向上を図るとともに、必要な知識の普及啓発に努めました。

また、予防に関して積極的に取り組み事業対象者の把握や、地域のサロン、住民の活動についての情報提供を行い、要支援・要介護の重度化の抑制・自立支援の視点に立った介護予防サービス計画の作成に努めました。

今年度モデル事業として始まった、短期集中予防型サービスについては利用者の参加・同意を得て、通所施設やリハビリ専門職、栄養士、薬剤師等と協力をしながら、「地域で今まで通りの生活を継続する」を目標に支援してきました。来年度は総合事業の新たな組み換えに対応し、継続して利用者の自立支援に取り組みます。

③ 権利擁護事業

虐待対応や権利擁護についての相談に関しては、各機関と協力体制をとり利用者が安心して生活できるように急性期対応後も継続して相談支援を行っています。

市や地域関係団体と連携を深め、虐待の早期発見や見守り・相談支援に努めました。また、成年後見制度や虐待防止に関する研修に参加し、知識の向上に努めました。

④ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

サービス調整が難しい対象者に対し、ケアマネージャーやサービス提供事業者と随時同行訪問を行うとともに、担当者会議に参加し、関係機関との連絡調整を行いました。また、地域を支える方々と連携し、高齢者の生活を総合的に支える体制作りに努めました。圏域での支援者が知識・技術向上を図れるように、年3回の圏域事例検討会を開催しました。

⑤ 地域ケア会議の開催

高齢者ができるだけ住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、各地域のネットワークを作り、地域課題の把握などを目的とし、医療・介護の専門職及び地域の支援者の方々の協力を得ながら「圏域別地域ケア会議」を開催しました。また、個別の事例に合わせて、サービスが導入できない、生活の支援が困難である等の事情があるケースについて「個別地域ケア会議」の開催も行いました。

また、高齢者の自立を促し、自分らしい生活を取り戻してもらうため自立支援型地域ケア会議の模擬を開催し、来年度に向けて定期開催を行っていきます

⑥ 生活支援コーディネーター

専任の生活支援コーディネーターを配置し、社会資源の開発や地域の元気アップ体操の場づくりを行いました。住民主体の活動を支援することで、地域の介護予防となり、地域の方々から困りごとの情報も入ってくるようになりました。

今後も住民ニーズに基づいた地域資源の開発に取り組みます。

⑦ 自立支援コーディネーター

今年度包括内に、自立支援コーディネーターを配置し、生活支援コーディネーターや三職種と共同しながら、利用者にとっての望む暮らしを目標に自立支援に取り組んでまいりました。

【令和元年度の状況・評価】

昨年同様、市の委託業務を受け、地域づくり、関係機関とのネットワーク構築に努めました。支援の必要な高齢者を適切なサービスにつなげたり、介護予防にも力を入れ、地域包括としての認知度も向上したと考えます。

地域の課題や特徴について、住民の方、自治会、民生委員等の地域支援者と共有する機会を設け、地域担当を中心として困りごとを抱えている高齢者の相談がスムーズに入ってくるようになり、関係している方々との信頼関係も深めてまいりました。

新たに、短期集中予防型サービスのモデル事業も始まり、より一層利用者の自立支援とは何かを包括内で共有することができ、実際の支援の視点に役立てています。

包括内での毎月の勉強会、自立支援型地域ケア会議を通して、職員間の知識や利用者支援の方向性の統一を行ってきました、自立支援コーディネーターを中心として、来年度に向けてさらに深化させたいと考えます。

生活支援コーディネートとして、生活支援コーディネーターを中心に、地域の介護予防啓発に努め、住民主体の活動の支援を継続しています。

今後も地域のネットワーク作りの強化を行い、実態把握や地域包括支援センターの周知を行うことで、状況に応じた切れ目のない相談支援体制を構築することが大切であると考えています。

デイサービスセンター 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

1. 利用者の自立支援を最大の目的として、利用者の自主的な考え方や思いなどを理解し、出来るだけ実現できるようにする。
2. 各利用者それぞれにあわせたレクリエーション、機能訓練等をきめ細かく行う事で、利用者に満足して頂き、同時に問題点を解決していく
3. ケアマネ、家族との連携をとり、利用者が抱える問題点を解決し、過ごしやすい環境作りを行っていく。
4. 職員一人一人が問題意識を持ち、より良い支援が出来るようにお互いが努力、研鑽していきけるようにする。

【目的】

1. 全ての利用者に楽しんでいただけると共に、自立に繋がる支援を目的とします。
2. 全ての利用者に、少しでも精神的・身体的に維持又は向上して頂くことを目的とします。
3. 在宅生活で抱えている問題を少しでも改善し、また、各利用者の意思、思いを出来るだけ可能にするような援助・支援を目的とします。

【具体的事業報告】

1. 通所計画に基づき、その人にあった機能訓練、レクリエーションの提供を行っていく。
2. 毎日のカンファレンスの中で、利用者の現状と今後の支援方法について検証していく。
3. レクリエーション内容については具体的な週間、月間カレンダーを作成して、利用者に告知していく。
4. 日常的に行うレクリエーション、非日常的に行うレクリエーション等のバランスを考えて計画に行っていく。
5. 施設内での研修・勉強会などを実施する。

【令和元年度の状況・評価】

令和元年度は、機能訓練加算の算定もなく、収入の大きな増には繋がらず大変苦労した1年であった。原因としては、長年利用されていた介護度の高い方、利用依存の高い方が逝去されたり、施設へ入居されたりで延べ人数が大幅に減少したこと考えられる。後半にかけ、他事業所ケアマネからの新規の依頼も増え、稼働率100%の日も増え、結果的に定員を24名から28名に増やし、年度末には加算を算定していないにも関わらず、加算算定月と同じ位の収入を得る事ができた。他、職員が安心して働けており、退職希望者（離職率）が0だった事も評価に値すると思う。令和2年度は機能訓練加算の算定をし、収入増を目指していきたいと思う。

ヘルパーステーション 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

1. 利用者の思いをして大切にし、利用者の生活に寄り添いながら、在宅生活が、安心、安全過ごせるように、支援、援助を行う。
2. 訪問を重ねるごとに、利用者にも、家族にも満足していただけるように、常に考え質を高めていく。

【目的】

1. 常に利用者を中心に考え、在宅生活が本人らしく、自立して過ごせるような支援、援助を目的とする。
2. 本人だけでなく家族や地域なども含めて連携し、細やかな配慮の出来る支援、援助を目的とする。

【具体的事業報告】

1. 業務内容の見直しを図り、事務作業の効率化を進める。
2. 特定事業所加算（Ⅱ）算定必須事項による、ヘルパーの訪問毎の報告により、正確な現状把握をする。サ責からの毎回指示の実行により、次回の訪問がさらに良くなるよう支援に生かす。
3. 地域包括支援センター 居宅介護支援事業所への現状報告書作成と積極的な情報提供。
4. 宇部市訪問介護事業所連絡会・研修会に参加し、情報・意見交換継続強化と介護技術、知識の向上を目指す
5. 宇部CM・家族・他事業所関係者との密な連絡・連携の確保
6. 報告・連絡・相談（ほうれんそう）の徹底

【令和元年度の状況・評価】

令和元年度は、平成30年度の収入とほぼ同じとなった。

報告、連絡、相談を密に行い、チームワークの良さを生かして、きめ細かい支援に努めた。毎日の訪問により、2名の利用者様の最期の看取りの支援に関わらせて頂く事が出来た事は貴重な経験となった。1月に1名、2月に1名と続けて非常勤ヘルパーの入職もあった。これを生かし、令和2年度は、実績を上げていくと共に、利用者へのサービス向上と、職員も働きやすい職場を目指したい。

居宅介護支援事業所 宇部あいおい苑

【事業基本方針】

介護保険法の理念に基づき、高齢者が在宅にて自立した生活を送れるよう、また介護者が在宅で介護できるように、行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源の活用も含めた居宅サービス計画書の作成、介護保険の相談業務を行なう。

【目的】

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、その人らしく生活を継続できるように中立・公平的な視点からサービス利用の調整を行う。

介護が必要な状態になっても、自身の有する能力に応じて可能な限り生活を営むことができるよう、心身の状況や環境因子に配慮し必要なサービスや社会資源を提供する。

【具体的事業報告】

- ① 住み慣れた地域で在宅生活が続けられるように、適切な福祉サービス・医療・社会資源の機能を有機的につなげ、きめ細やかなサービスを提供。
- ② 近隣の病院・地域包括支援センターや様々な社会資源とのネットワーク・信頼関係の構築するため迅速・丁寧・確実な対応。
- ③ 多様化するニーズに対応する為、職員それぞれが研修参加や新たな社会資源の発見を行い自己研鑽に努めた。

○令和元年度延べ人数 介護：695人 予防：166人 合計861人

○令和元年度平均件数 介護：57.9件 予防：13.9件

○令和元年度総収 計：9,107,950円

○令和元年度平均新規件数 2.08人

【令和元年度の状況・評価】

- ① 総収入に関しては前年度比にて213,210円の黒字を計上できた。
- ② 年度当初は担当件数、売り上げともに低迷したが、年度末には目標である月間80万円の売上に届く結果となった。これは予防支援も積極的に担当していた結果、担当していた利用者が予防→介護に多くなった事が一因である。
- ③ 新規の獲得件数に関しては合計25件あり。昨年度と同様に過去の平均新規依頼件数を上回る結果となった。これに関しては地域包括支援センターなどの近隣地域資源との連携が深まってきた結果と考える。

- ④ 今後も利用者への満足度の高い支援の実施を目標とし信頼関係を構築することでその家族や知人からの依頼に繋がり独自のネットワークを構築していく。また、近隣の病院・地域包括支援センターとの決め細やかな連携、社会資源を活用する事によりネットワークの構築を図り、信頼される事業所作りに励んでいく。
- ⑤ 宇部あいおい苑デイサービス、ヘルパーステーションと連携を今後も強化していき、宇部あいおい苑全体での収益の健全化に繋げて行きたい。

グループホーム 湯田あいおい苑

【事業基本方針】

1・理念

その人らしく最期まで尊厳のある人生を

2・方針

“地域と友（共）に”を大切にします

“笑いの絶えない心地よい空間”を大切にします

“約束を守る”を大切にします

“音のある風景”を大切にします

“温もりの香り”を大切にします

“認知症を個性ととらえ思いやりの介護”を大切にします

【目的】

家庭的な生活のもとで、安全で住みやすい環境作りを行い、日々の生活の中で身体機能維持・向上を図り、楽しく毎日の生活ができるように支援する。

【入居者の状況報告】

(1) 入退居・入院状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 入居者数 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 17 | 17 | 18 | 18 |
| 退居 | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 入居 | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| 入院 | | | 1 | 2 | | | | 2 | | 1 | 1 | 1 |

(入院状況)

| | | | |
|------|---------------|------------------|----|
| 令和元年 | 6月10日～7月4日 | 佐々木外科(左大腿骨転子部骨折) | 路 |
| 令和元年 | 7月8日～7月26日 | 佐々木外科(気管支炎) | 橋本 |
| 令和元年 | 7月25日～8月7日 | 日赤(胃癌) | 西嶋 |
| 令和元年 | 11月1日～11月20日 | 済生会(骨盤骨折) | 藤田 |
| 令和元年 | 11月14日～11月29日 | 佐々木外科(肺炎) | 辻野 |
| 令和2年 | 1月16日～2月27日 | 日赤(左大転子骨折 肺炎) | 橋本 |
| 令和2年 | 3月2日～3月12日 | 日赤(卵巣子宮切除) | 西嶋 |

(入退居状況)

| | 退居 (行先) | 入居 (経由) |
|-----|---------------|----------|
| 12月 | 15日 (苑死亡 看取り) | |
| 1月 | 29日 (特養) | 5日 (自宅) |
| 2月 | | 2日 (サ高住) |
| 合計 | 2名 | 2名 |

4. 入居者状況

令和2年3月31日時点

(1) 入居者の年代

70歳代×1名

80歳代×4名

90歳代×13名

平均年齢 91.1歳 76歳～104歳

(2)病名 ・アルツハイマー型認知症 17名

・前頭側頭葉型 アルツハイマー型混合 1名

(3)医療行為 ・褥瘡処置×1名 ・点滴×2名

(4)障害高齢者の日常生活自立度

・A1×11名 ・B1×1名

・A2×4名 ・B2×1名

(5)認知症高齢者の日常生活自立度

・Ⅱb×5名

・Ⅲa×9名 ・Ⅳ×3名 ・M×1名

(6)医療機関への受診

・診療 (おうちクリニック)

・訪問診療並びに訪問看護 (おうちクリニック)

・訪問診療 (すえなが内科在宅診療所)

・歯科訪問診療 (福田歯科医院)

・訪問看護 (特別指示書による) (訪問看護おかふじ)

他医療機関への受診

- ・仁保病院（認知症専門）
- ・済生会山口総合病院（内科 脳神経外科 産婦人科 整形外科）
- ・山口赤十字病院（外科 整形外科 産婦人科）
- ・本永泌尿器科
- ・佐々木外科病院
- ・おざさ皮膚科
- ・平川眼科
- ・こころの医療センター(認知症専門)
- ・大野整形外科
- ・とみなが皮膚科
- ・せぐち皮膚科
- ・福田歯科（受診 及び訪問診療）

【具体的事業報告】 行事報告

| 月 | 行事内容 |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | ・湯田温泉祭り ・花見 ・鯉のぼり鑑賞 |
| 5月 | ・鯉のぼり鑑賞 ・藤の花鑑賞 ・湯田保育所花祭り ・母の日 |
| 6月 | ・ホタル観賞 ・紫陽花鑑賞 ・あいお荘食事会 ・宇部空港バラ園 |
| 7月 | ・七夕会 ・湯田保育所夏祭り |
| 8月 | ・提灯祭り ・徳地花火大会 |
| 9月 | ・敬老会 ・中秋の名月鑑賞 ・彼岸花鑑賞 ・バーベキュー大会 |
| 10月 | ・ゆめタウン食事 ・長門峡散策 ・湯田保育所運動会 |
| 11月 | ・紅葉狩り ・秋葉祭り |
| 12月 | ・湯田あいおい苑クリスマス会 ・餅つき ・イルミネーション見学 |
| 1月 | ・寿司パーティー 獅子舞 ・初詣(ユニット別) |
| 2月 | ・節分 ・梅見学（防府天満宮 香山園） |
| 3月 | ・ひな祭りお祝い |

- ・お料理 おやつ作り・食事作り
- ・収穫祭 畑で採れた野菜・バーベキュー
- ・その他 誕生日会・スペシャルバスデー・手芸ボランティア
買物…・苑車使用 ・徒歩（近隣商店街）
外食…湯田近辺レストラン ゆめタウン
- ・地域交流 散歩…近隣の神社・お寺・公園・足湯利用
自治会行事…祭り参加 清掃・サロン(公民館活動)
湯田保育所園児との交流
近隣商店での買い物 運営推進会議参加
- ・消防訓練 9月 3月

【令和元年度の状況・評価】

- ・年間を通じ入院はのべ7名、うち2名は別の疾患で2度の入院をされている。入院中にADLの急激な低下もみられ、回復も困難かと思われたが徐々に復帰され、入院前のほぼ近いレベルにまで1名の方を除き、皆様回復された。その他の方々は皆様安定されておられた。
- ・後半期に2名入退居があった。退居については年々重度化していく中で介護度の高い方は特養へと移動された。初めての看取りも実践した。本人の「点滴は絶対にやらない。入院は絶対に嫌。」家族からも積極的な医療行為は望まないとの意向に沿い、最期まで尊厳のある人生とはという事を、身を持ってご本人より学ばせて頂いた。今回の初めての尊い経験が今後のケアの指標に繋がると感じる。
- ・過去にAEDを使用した事例がありそれ以降、定期的に全職員がAED講習会にて実践力を身につけられるよう参加を行った。
- ・外出を特別なものとせず、地域での関係性を絶やさず地域資源を十分に活用し、当たり前の毎日の生活を大切にすることに努めた。今後も継続していきたい。前年度に引き続き地域の学校での福祉教育にも参加させていただき、職員の日々のケアの振り返りの場にもなり、良い経験となった。
- ・職員間でのミーティングを多く持つ事で、思い違い、すれ違いをなくし統一したケアが出来るよう話し合った。
- ・認知症の勉強会を定期的に行い、知識や専門性を少しずつ身につけ積み重ねていく事で、実践力を養い、事故、虐待、不適切な対応に繋がる風土をなくしていきたい。
- ・後半期は新型コロナウイルスの感染対策として、面会、外出の制限が行われた。地域に出向く事も出来ず、限られた環境の中で閉鎖的な空間にならず活動量低下予防、認知症状進行予防に努めた。

グループホーム 徳佐あいおい苑

【事業基本方針】

- 1.あ…明るく微笑みのある生活 を大切にする。
- 2.い…生きがいのある生活 を大切にする。
- 3.お…お互いを認め合う生活 を大切にする。
- 4.い…今を共に生きる生活 を大切にする。

【目的】

「その人らしく」を基本とし、自然の環境の中で季節を感じてもらい、毎日を楽しく・生きがいを持って・自分らしく暮らせるように支援する。

【入居者の状況報告】

(1) 入居・退去状況

入居 3名 自宅 3名、
退去 3名 病院 3名

(2) 入居者の年代

80歳以上85歳未満・・・1名
85歳以上90歳未満・・・7名
90歳以上95歳未満・・・7名
95歳以上・・・3名
平均年齢・・・90.4歳

(3) 介護度別 平均介護度・・・3.05

要介護1 1名
要介護2 5名
要介護3 7名
要介護4 2名
要介護5 3名

(3) 医療機関への受診・入院

定期往診 三浦医院×13名
定期眼科 こうの眼科×4名
定期受診 仁保病院×2名 大草医院×4名 藤原内科医×1名
山口日赤×1名 済生会病院×1名（家族対応による）

【具体的事業報告】

令和元年度、徳佐あいおい苑は昨年と変わりなく、季節に合った行事、活動を行えた。自豊かな地を活かし、畑で野菜を収穫し、近所を散策して花の香りや、季節にあった空気を
感じる事ができた。保育園、他施設、社会福祉協議会、婦人会等とも良好な関係を継続
できた。これからも地域社会の一員として職員、利用者共に生活して行きます。

(活動の状況)

1.苑内行事

誕生会、そうめん流し、七夕行事、敬老会、
クリスマス会、新年会、節分際、ひな祭り

2.苑外行事（外出等）

友清りんご園散策（ブルーベリーアイス）・船方農場散策、徳佐りんご狩り

3.交流行事

徳佐保育園交流、徳佐保育園運動会、ボランティア訪問による銭太鼓
レーモンドシックス演奏会、家族交流会、あんずの里食事会、三世代交流会

4.その他、日常の活動

散歩・ウッドデッキでのお茶や日光浴・おやつや野菜作り
体操・家事の手伝い・貼り絵・ちぎり絵・しりとり等のゲーム

【令和元年度の状況・評価】

今年一年を振り返り、昨年同様、安定した稼働率に努める事ができた。利用者の退所も3
名でありいずれも医療面での支援が必要な方でした。その他の利用者には健康に過
ごす事ができました。四季折々、季節に合った行事を行えた。職員教育では特に利用者
に対する言葉遣い(スピーチロック)について1年間研鑽に励む事ができた。他施設、社協、
行政とも昨年同様に良い連携は図れました。昨年との大きな取り組みの違いは町内の業者
からチラシ折りの依頼があり(不定期であるが)利用者と一緒に取り組む事ができ利用者
が地域の一員として役割を果たせた事が良かったと思う。ただそこに住み続けるのではな
く地域の一員として役割を持つ事に生きがいを感じ、また過疎化に伴う地域(業者)の二
ーズに答える事ができお互いの相乗効果が図れたと思う。来年度も利用者が笑顔に健康に
過ごす事ができ住み慣れた地域で利用者が住民の1人として何等かの役割を果たせて行
けるように支援して行きます。

グループホーム 徳地あいおい苑

【事業基本方針】

- ・個性を尊重し信頼関係の構築に努めました。
- ・入居者の皆さんと価値観を共有した毎日を過ごさせていただきました。
- ・常に敬愛の気持ちを持って、支援を心がけました。
- ・ご家族や地域の皆様の協力を得ながら、明るく楽しい笑いのある場所づくり努めました。

【目的】

入居者一人ひとりと向き合い信頼関係を築き必要とされる支援を行うことで、毎日が安心安全に暮らし『ぬくもりの家』を提供している。

【入居者の状況報告】

(1) 入居 3名 退居 5名

(2) 入居者の年齢

70～79歳未満×2名 80～89歳未満×6名 90歳以上×8名

(3) 病名

脳血管性認知症 4名

アルツハイマー型認知症 9名

前頭葉・側頭葉型認知症 3名

(4) 障害高齢者日常生活自立度

J2×1名 A1×7名 A2×3名 B2×4名 C2×1名

(5) 認知症高齢者日常生活自立度

Ⅱa×4名 Ⅱb×3名 Ⅲa×3名 Ⅲb×2名 Ⅳ×4名

(6) 医療機関への受診支援

- | | | |
|-------------|------------|----------|
| ・おおうちクリニック | ・仁保病院 | ・えま皮膚科 |
| ・山口赤十字総合病院 | ・柴田病院 | ・ながた泌尿器科 |
| ・県立総合医療センター | ・済生会山口総合病院 | ・あさひ歯科 |
| ・周南記念病院 | ・小林眼科 | ・佐々木外科病院 |

- ・松本外科病院
- ・光山医院
- ・とりい脳神経外科
- ・かわもと眼科
- ・寿町クリニック
- ・くらたクリニック
- ・しみず医院

【具体的事業報告】

(1) 市内外探訪

季節折々の花々や風景を楽しむ（市内の桜・菜の花・紫陽花・梅の花、コスモス）、フジグラン宇部で買い物（家族会）、防府天満宮、下松、津和野、道の駅巡り（ソレーネ、仁保の郷）、初詣（出雲大社周防分院、玉祖神社）、八雲神社節分祭、外食を楽しむ、甘い物食べ歩き、個別外出支援（馴染みの場所訪問、ショッピング）、梨狩り など

(2) 苑内行事

納涼祭、運動会、ゲーム大会、敬老会、そうめん流し、クリスマス会、忘年会、餅つき、新年会、節分祭、昼食作り（お好み焼き、餃子） など

(3) 交流

（ボランティアさんとの交流）

手芸ボランティア、オカリナボランティア、シンガーソング、演芸 など
（地域の商店や近隣の方々との交流）

お買い物、散歩、散髪、回覧板回し など

（ご家族や友人との交流）

自治会行事（清掃、祭り等）への参加、個別外出（姉妹に会いに行く、ショッピング等希望の場所へ行く）、他事業所との交流など

(4) その他活動

書道、ラジオ体操、風船バレー、唱歌、塗り絵、ちぎり絵、折り紙、造花作り、切り絵、裁縫、漢字ドリル、計算ドリル、文章書き写し、テーブルゲーム、おやつ作り（桜餅、ピザ、ホットケーキなど）、家事手伝い（料理下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、台拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除） など

【令和元年度の状況・評価】

施設の中では入居者ひとり一人の言葉にできない思いをも汲み取り、自分が必要な存在だと認識してもらうことが大切だと思います。入居者それぞれに自分でできることをお願いすることで、達成感や生きがいを持ってもらう。ご家族や地域の方とのふれ合い、一緒に暮らす高齢者や職員とコミュニケーションを図ることで孤独になる場面を少なく、毎日楽しく過ごしていただけるよう、チームで愛情のある暮らしを提供することができた。

共同生活援助 ひとつの会ホーム

【事業基本方針】

- ・地域の中に障害者も当たり前の「暮らしの場」を持つ
- ・地域の中で役割を持ち、地域の一住民として生活できるよう支援する
- ・障害特性に応じた支援を行い、それぞれの利用者にとっての自立を目指す
- ・地域住民と共に暮らすことによって、障害者の暮らしを地域に向けて発信していく機会とする

【目的】

障害者が、当たり前で地域で暮らすことを実現できるよう、利用者、地域住民双方に働きかけを行っていく。障害者も含め、様々な人が暮らしやすい街を作ることができるよう、障害者の暮らしを通して社会に対し発信、提案を行う。

【入居者の状況報告】

- ・利用者5名、満室で入れ替わりなし。
- ・再就職、職場でのトラブル支援等、就労関係の支援が必要な状況が多く発生した。

【具体的事業報告】

- ・利用者のライフステージに応じた支援

親の認知症、離職、再就職、職場でのトラブル等、利用者の人生の転換点となる支援が多かった。

そのような時にどのような支援を行えるのか、利用者の人生全体を見渡す視点を職員全体で持ち、専門的な支援の方法の共有をし、より良い支援を考えた。各必要な機関と十分に連携するようにし、利用者の生活を支えた。

- ・勤務体制の再構築

県による制度解釈の変更や、今後の利用者、利用者家族の高齢化に伴うホームの在り方を職員で検討し、日曜、祝日の巡回支援を新たに開始。仕事が休みの日の困りごと等の相談に乗ることができるようになった。

- ・新型コロナ関連での支援の変更

新型コロナの関係で仕事が長期間休みになったことや、感染への理解の難しさや過度な不安による二次障害様の状況が見られている。

仕事が長期間休みになった利用者には、日中の時間の過ごし方の助言や見守りを行った。利用者が持てあましてしまう時間を利用し、普段できない丁寧な支援をすることができたのは良かった。

新型コロナに対する適切な理解をすることは利用者にとって難しいが、それぞれの利用者にとって必要な事柄を抜き出し、かみ砕いて適切に伝えること、実践を支援することを続けた。

【令和元年度の状況・評価】

- ・利用者の生活の転換点となる支援が多かった。その中で、職員が利用者の生活全体を見渡す視点を持つこと、その中で現在有効な支援は何なのか考えることが必要となり、職員全体がより利用者について深く観察、必要な支援を模索、必要な支援を学ぶことができ、全体のスキルアップにつながったと思う。
- ・勤務体制が日曜、祝日の巡回が加わったことで、より利用者の生活に寄り添った支援が可能となった。また今後の利用者の加齢に伴う変化を見据えたときにも安心なホームの体制の第一歩を作ることができた。
- ・新型コロナ関連の支援をする中で、環境の変化に伴う利用者の変化に直面し、非常時の利用者の支援について考えるきっかけとなった。
また、職員の感染対策に関する知識を更に深めていく必要性を感じた。
- ・職員が障害者アートの研修会を受講し、利用者の余暇支援、自己表現の支援の幅が更に広がった。芸術文化祭にも出品し、利用者の自信にもつながった。

生活介護事業所 トイロ

【事業基本方針】

- ・ 地域の中で役割を持ちながら、充実した生活ができるよう支援する。
- ・ 様々な経験をする機会を提供し、豊かな人生となるよう支援する。
- ・ ライフステージに応じた、利用者の生活全体を見据えた適切な支援をすることによって将来にわたり利用者を支える。
- ・ 地域に向けて障害者の生活を発信していくことで新たな価値観をつくり、子供から障害者、高齢者まで誰もが良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

【目的】

- ・ 誰もが地域の中で役割を持ちながら、自立した生活が営めるよう、日中にやりがいをもって活動できる場を提供し、地域での生活を支える。
- ・ 障害の有無に関わらず、誰もが互いを認め合いながら、それぞれの良さを発揮できる地域づくりに貢献する。
- ・ 事業所が地域にあることで、地域の活性化に貢献する。

【利用者の状況報告】

平成31年4月より事業開始し、徐々に利用者を獲得してきた。

令和2年3月に、まとめて10名新規利用者契約。

自閉症の利用者が特に増え、それに伴った対応、環境調整等必要となっている。

【具体的事業報告】

- ・ 4月 4/1 事業開始
- ・ 5月 農作業開始、トイロ敷地内に畑を作り夏野菜の栽培を行う。
シュレッダー処理作業開始。佐野事業所と契約、処理代金をいただく。
月1回程度利用者と用紙の受け取りに行き、事業所間の交流の機会となる。
- ・ 6月 紙製品製作開始。封筒、ポチ袋の作成を行う。トイロの玄関に販売コーナーを作り、販売する。
- ・ 7月 ボランティアを招いてのだし巻き卵実演、そうめん流しを行う。
トイロでできた野菜の販売開始。玄関の販売コーナーにて販売する。
- ・ 10月 紙製品地域の店舗での販売開始。
- ・ 11月 地域のアパートの大家さんより依頼のあったアパートの資源ごみを回収、処理する作業を開始する。
- ・ 12月 地域の幼稚園と共同でプランターでのねぎの栽培を開始。
お隣のお宅に来られる乾物屋さんの利用開始。

【令和元年度の状況・評価】

- ・4月より事業開始し、まずはトイロのことを広く知ってもらうこと、また、トイロの特色づくりに力を入れた。周囲に自然が多い環境を生かした活動を行うこと、また既存の民家を改装した建物でアットホームな雰囲気であることを発信し、それに合った利用者が集まってきている。
- ・年度途中の新規利用者は少ない傾向にあるため、支出に対し、収入が非常に少ない状況が続いていたが、3月からは新規利用者も増え、収入も増えつつある。
- ・自主製品を地域の店舗で扱っていただくことによって、トイロの活動、障害を持った人の理解のきっかけ作りとなった。自主製品、野菜を地域との協働のツールとして、今後も少しずつ範囲を広げていく。
- ・地域との関係は良好で、隣のお宅への古紙回収や隣のお宅の敷地内に来られる乾物の移動販売を一緒に利用することで利用者含めた交流もできている。ほぼ抵抗なく、自然に接しただけでいる印象を受ける。
近所の幼稚園と共同でねぎの栽培を小規模ながらも行き、協働の足掛かりを作った。
野菜の栽培の知識がないと言われる幼稚園にはとても喜んでいただけた。
今後、微力ながら食育を共同で行うことを計画している。幼稚園への利用者の行き来もでき、幼児期から障害のある人と触れ合う機会を作ることができた。園児、保護者の理解も少しずつ得られている。
一年を通して、地域との良好な関係を構築していく足掛かりを作れたと感じている。
- ・新規利用者は自閉的傾向のある利用者が多く、それに対応した活動内容、支援内容の検討、環境の細かい調整を行った。今後も、継続した利用者の状況のアセスメント、それに基づいた支援の構築、また職員の支援力の向上を図っていく。
- ・新型コロナウイルスの影響で、2月下旬頃からは安全を優先した活動内容となった。周辺地域の感染の状況を見極め、状況次第で柔軟に変更していけるよう、様々な活動のバリエーションを持っておき、また職員の知識、対応スキルを向上しておく必要がある。